

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年3月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2022年3月14日～3月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 132社
- 回収率 66.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の3月の状況を見ると業況DIは、前月より7.3ポイント改善の▲28.1となった。

2017年9月以来55ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲28.0、当月と比べ0.1ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2021年 10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	先行き見通し 2022年4月～ 2022年6月
業況	▲32.6	▲33.4	▲23.0	▲25.2	▲35.4	▲28.1	▲28.0
売上	▲14.7	▲15.4	▲6.3	▲10.0	▲26.8	▲15.9	▲15.9
採算	▲34.9	▲35.8	▲21.4	▲27.5	▲33.9	▲29.8	▲26.6
仕入単価	▲62.0	▲65.1	▲65.9	▲68.7	▲68.5	▲74.2	▲75.0
販売単価	4.7	13.0	8.7	13.0	14.2	18.2	20.5
従業員	19.4	21.1	23.1	23.7	21.3	28.1	28.8
資金繰り	▲17.1	▲11.3	▲6.3	▲11.5	▲22.0	▲18.2	▲19.7

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	先行き見通し 2022年4月～ 2022年6月
建設	▲18.5	▲43.4	▲32.2	▲27.6	▲35.7	▲34.5	▲44.8
製造	▲37.5	▲41.4	▲26.7	▲9.7	▲23.3	▲6.9	▲27.6
卸売	▲20.7	▲22.2	▲7.4	▲28.5	▲35.7	▲30.0	▲23.3
小売	▲44.5	▲26.7	▲23.5	▲44.4	▲44.4	▲38.9	▲33.3
サービス	▲47.8	▲27.3	▲25.0	▲24.0	▲43.5	▲34.6	▲11.6

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアのウクライナ侵攻による原油供給のひっ迫がインフラ料金と資材価格に与える影響を注視している。木材や燃料は事前購入しにくいいため、ヘッジの方法が限られてしまうためである。（総合工事） ・工事量は、昨年と比べ若干ではあるが減少傾向にあり、また、原油高やコストプッシュによる物価上昇が経費増大につながり利益に対し悪影響を及ぼし始めており経営環境はさらに厳しくなると想定している。なお、人材については不足気味で即戦力（資格保有者）と将来を見据えて若い人材の確保を積極的に進めたいと考えている。（設備その他） ・旭川市内、近郊の工事が極めて少ない。地方にも営業していますが、経費が高くなり売上向上には結びつかない。又、4月から資材が軒並み上がり、さらに売上に影響すると思われる。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・まん延防止等重点措置がやっと解除となり、発注数が増えることを期待したいが、仕入原材料や資材、燃料等の相次ぐ値上げで明るい話題がなく利益率の低下が懸念される。（食料品） ・新規取引が増え売上は増加。仕入価格の上昇により利益率は伸び悩み。（食料品） ・ウッドショックによる仕入原材料の単価上昇と運賃（特に輸出出荷配送費）の高騰により、製造原価率の上昇が昨年より著しい。よって4月より製品販売価格の値上げを実施する事となった。（家具・木材） ・様々な要因で仕入れ材、運賃等が大幅に上昇して価格転嫁が追い付かない。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期間は天候によって売上が左右されるため、春から期待。（飲食料品） ・材価も横ばいの中で、車輛燃料の高騰による造材（林業機械）・運搬（トラック）コストの増、工業資材の価格上昇など事業利益を圧迫し厳しい状況にある。（機械鋼材） ・2月に引き続きコロナと半導体不足の影響で新車が減産で車両添付品の需要が落ちている。また蔓延防止等重点措置の影響により、エンドユーザーの動きが悪く商品の動きも悪い。（その他） ・原油市場は高値のまま推移しており石油製品全般において上昇傾向が続いているため、販売価格も当面の間、高値が続くと思われる。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・来店客が非常に少ない。まん延防止期間もあり、なかなか外出するタイミングがないようである。気候も少しずつ春らしくなってきたが肌寒く春服を着るには少し早く新社会人用スーツの需要もまったくない。（衣服身回品） ・まん延防止が解除になり、少し飲食店が動き始めたが4月には値上げの商品も多くあり、先行きが不安。（食料品） ・主な仕入れ先が4月から値上げすることになり販売に影響が出ると考えている。コロナが落ち着き夏に向けて観光客の増加を期待している。（その他） ・依然ウクライナ情勢が予測不能な面もあるが、原油価格が急騰している点や補助金等きちんとした採算販売が出来れば例年並の業績が出せそう。雪解けが早く春商戦に期待。しかし、ガソリン販売は前年85～90%で年初より推移して厳しい面も。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響多、観光客減。宿泊客減少のため、洗濯物減少有り。（理美容・クリーニング） ・まん延防止等重点措置の延長もあり稼働の低下、原油高騰による水道光熱費の増加、食材等の値上げによる仕入れ価格の上昇。（ホテル・旅館） ・まん延防止等重点措置に伴い、営業活動の自粛を強いられており、売上への影響を危惧している。（その他） ・売上は増加傾向にあるが、仕入価格の値上がりが続き利益減。まん延防止解除で人出が増える事を期待している。（飲食） ・人員不足のなかで、コロナ感染者が発生したことで円滑な業務の遂行に支障が出ていたが、今後はまん延防止措置の終了や季節的なこともあって3～4月の人の動きは回復に向かっていくと期待する。ただ、ロシア等の国際情勢もあって燃料価格などの安定が見込まれず厳しさは続くものと思われる。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI4.6 ポイント改善、採算 DI14.2 ポイント悪化、仕入単価 DI7.9 ポイント悪化、販売単価 DI 横ばい、資金 DI3.1 ポイント悪化、従業員 DI19.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業 5 ポイント悪化、総合工事横ばい、設備・その他 11 ポイント改善となった。昨年のような高温乾燥期が長期化する現象が今後もあると思われるのでその対策を検討している。肥料が高騰あるいは入手困難という情報が入っているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI17.4 ポイント改善、採算 DI13.2 ポイント改善、仕入単価 DI0.3 ポイント改善、販売単価 DI8.8 ポイント悪化、資金 DI4.0 ポイント悪化、従業員 DI12.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 16.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 29 ポイント、印刷・出版 13 ポイント、家具・木材 11 ポイント、金属窯業他 8 ポイント改善となった。原材料、包装資材の値上げにより当社商品の原価設定見直し中との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI22.3 ポイント改善、採算 DI19.0 ポイント改善、仕入単価 DI5.4 ポイント悪化、販売単価 DI14.5 ポイント改善、資金 DI11.2 ポイント改善、従業員 DI23.2 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 2 ポイント悪化、繊維・衣服等横ばい、食料品 8 ポイント、機械鋼材 21 ポイント改善となった。現在、今後の情勢もあり仕入原価の上昇に対応していかなければならないとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI 横ばい、採算 DI5.6 ポイント悪化、仕入単価 DI5.5 ポイント悪化、販売単価 DI11.2 ポイント改善、資金 DI5.6 ポイント悪化、従業員 DI16.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 5.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、自動車 20 ポイント悪化、その他横ばい、衣料品 50 ポイント、食料品 25 ポイント改善となった。新型コロナウイルスによる影響ありとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI9.4 ポイント改善、採算 DI5.5 ポイント改善、仕入単価 DI12.2 ポイント悪化、販売単価 DI9.2 ポイント改善、資金 DI20.9 ポイント改善、従業員 DI12.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 8.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 20 ポイント悪化、理美容・クリーニング横ばい、ホテル・旅館、整備業 20 ポイント、飲食 3 ポイント、運送 25 ポイント改善となった。今月までは軽油の高値だけだが 4 月に入ると他の仕入れも値上がりするため、当社も 4 月から料金の値上げをするとの声も寄せられている。</p>